

# グラフで見る関西経済(2023年7月)

2023年7月28日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

# 今月の景気判断～足踏み状態となっている

## 【今月のポイント】

- 関西経済は、足踏み状態となっている。
- 5月の生産は2ヵ月連続で減少し、足踏み状態となっている。汎用・生産用・業務用機械は増加したものの水準は低く、電子部品デバイス、電気機械が減少した。
- 6月の実質輸出は前月比+2.5%と2ヵ月ぶりに上昇したが、均してみると弱含んでいる。
- 個人消費は、物価上昇の影響が懸念されるが、ウィズコロナの定着により持ち直しの動きがみられる。

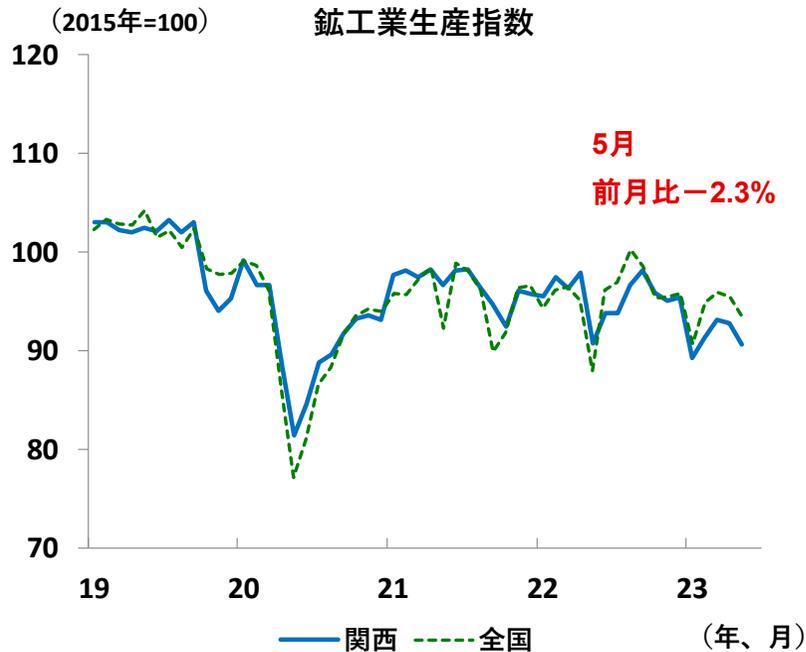
項目	現状
景気全般	足踏み状態となっている
生産	足踏み状態となっている
輸出	弱含んでいる
設備投資	持ち直している
雇用	持ち直しの動きがみられる
賃金	持ち直しの動きがみられる
個人消費	持ち直しの動きがみられる
住宅投資	横ばい圏で推移(↑)
公共投資	高めの水準となっている

注: ( )内は前月からの変化の方向

住宅投資は、「弱含んでる」から上方修正(↑)

# 生産

5月の鉱工業生産(関西)は前月比-2.3%と2カ月連続でマイナスとなり、足踏み状態となっている。業種別では、汎用・生産用・業務用機械が増加したが水準はまだ低く、電子部品デバイス、電気機械、化学が減少した。

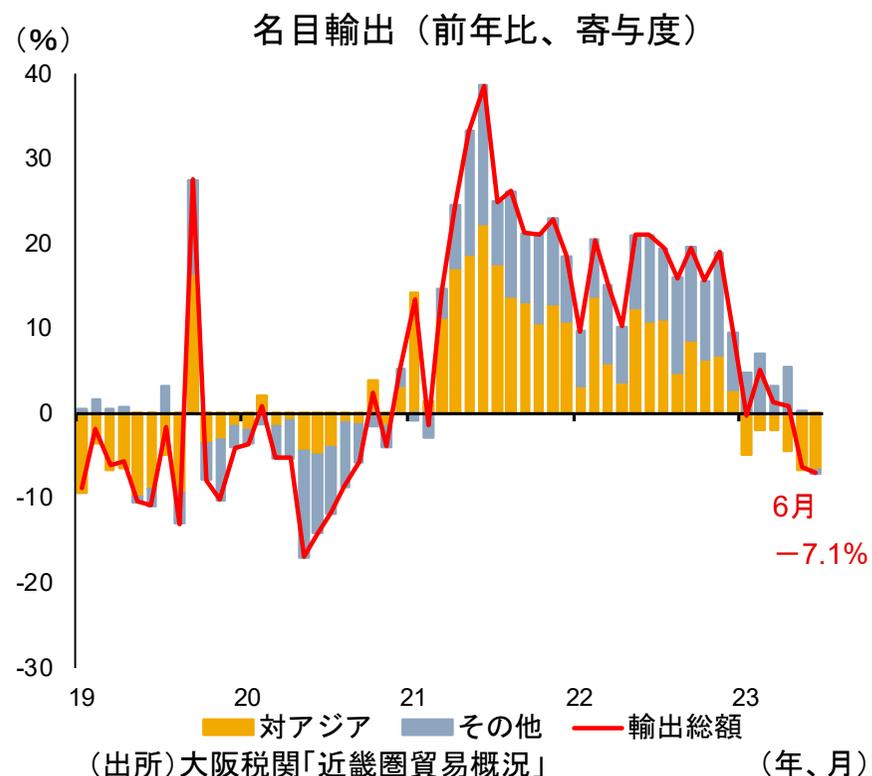
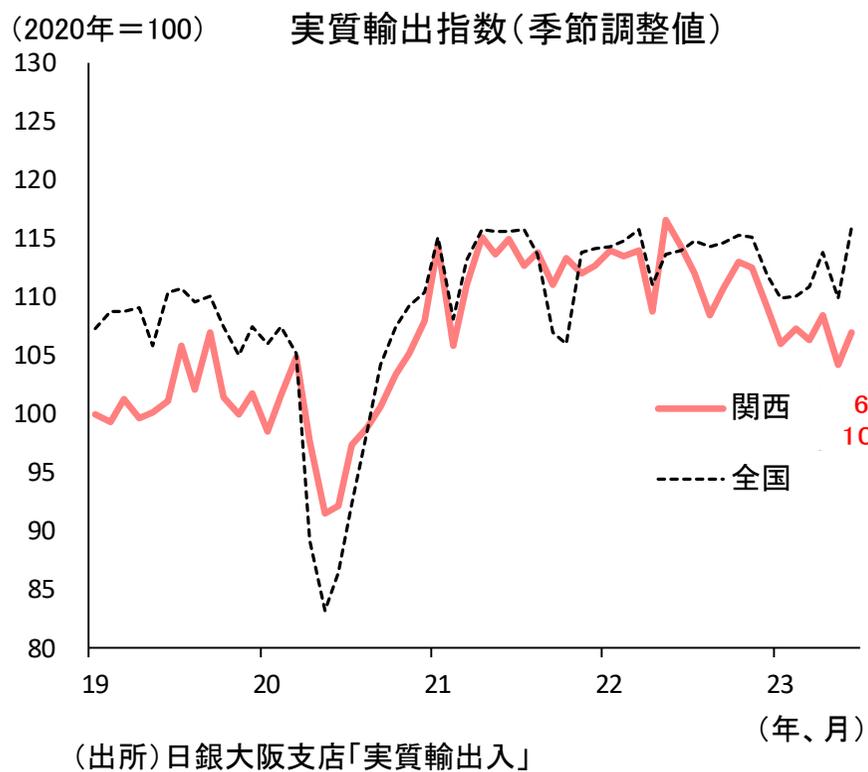


(出所)経済産業省「鉱工業生産動向」



# 輸出

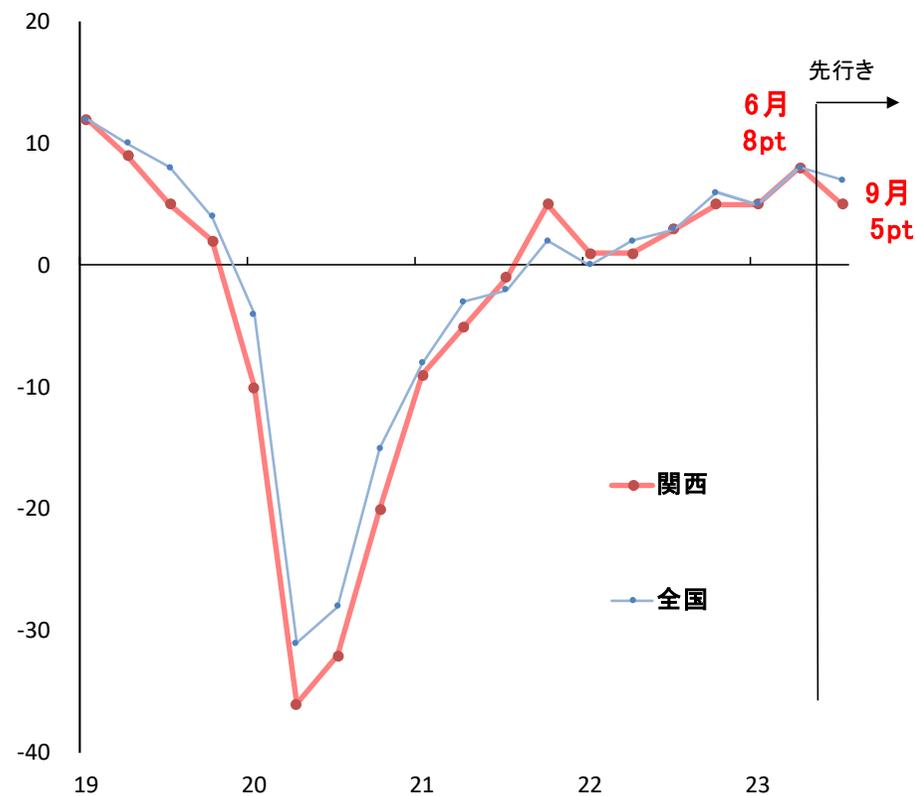
6月の実質輸出(季節調整値)は、前月比+2.5%の106.9と2ヵ月ぶりに上昇したが、均してみると弱含んでいる。名目輸出額(6月)は2ヵ月連続で前年を下回った。地域別では、米国向けが小幅ながら28ヵ月ぶりにマイナスとなり、アジア、EU、その他地域も減少した。品目別では半導体等電子部品、鉱物性燃料などが減少した。



# 企業景況感(日銀短観)

日銀短観6月調査の業況判断DIは、全産業で+8ptと6月調査から上昇。製造業は-1と「悪い」超ながら、前回調査からは改善、非製造業は、+16ptと「良い」の超過幅が一段と改善した。コロナ5類移行もあって、宿泊・飲食サービスが大きく改善した。先行き(9月)については、製造業は改善、非製造業は悪化が見込まれている。

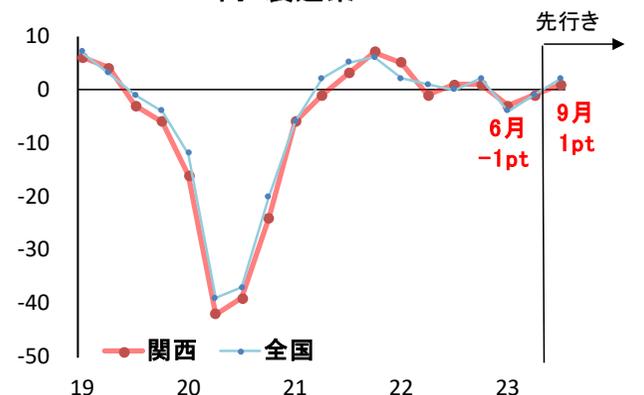
短観 業況判断DI「全産業」



(出所)日銀「短観」

(年、四半期)

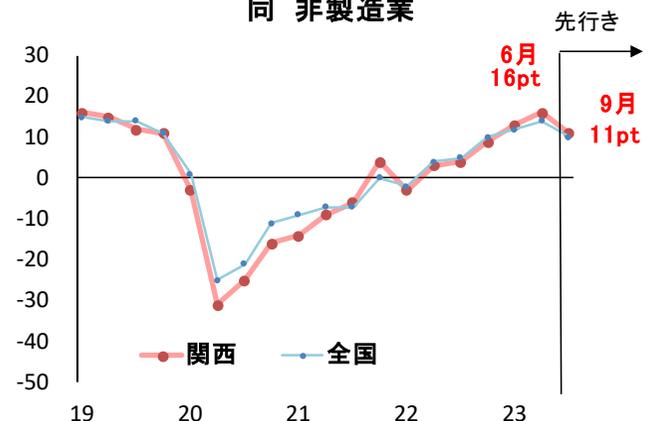
同 製造業



(出所)日銀「短観」

(年、四半期)

同 非製造業

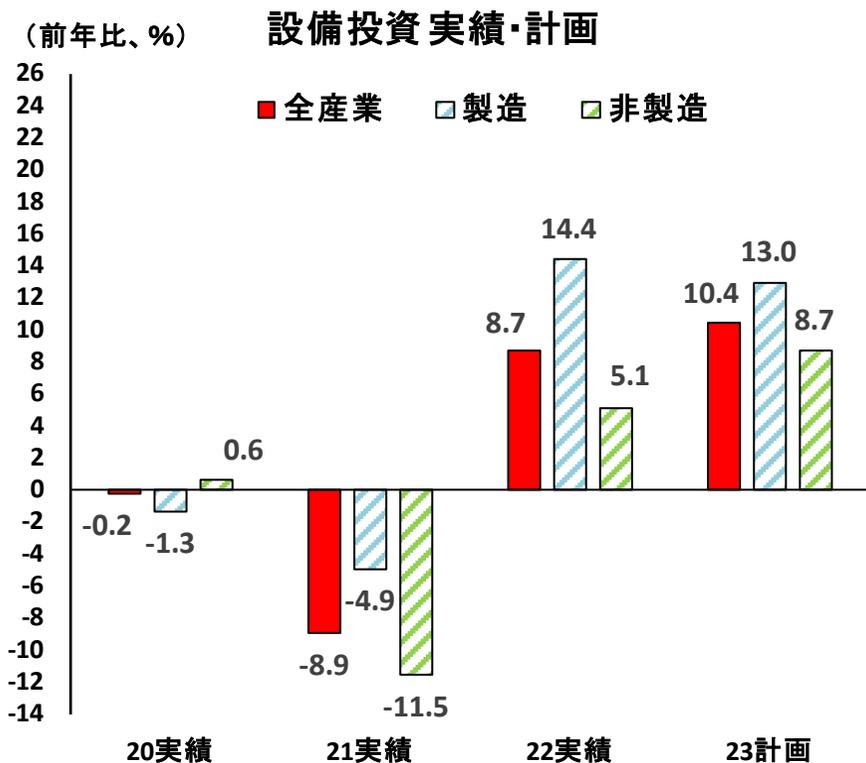


(出所)日銀「短観」

(年、四半期)

# 設備投資

日銀短観6月調査によると、23年度の設備投資は前年比+10.4%と、3月調査から上方修正となった。金属製品、輸送用機械、宿泊・飲食サービスなど多くの業種で前年比2桁の大幅増が見込まれている。規模別では、中小企業が減少を見込む一方、大企業、中堅企業で増加が見込まれている。



(出所)日銀大阪支店「短観」

(注)設備投資は、含む土地投資額

(年度)

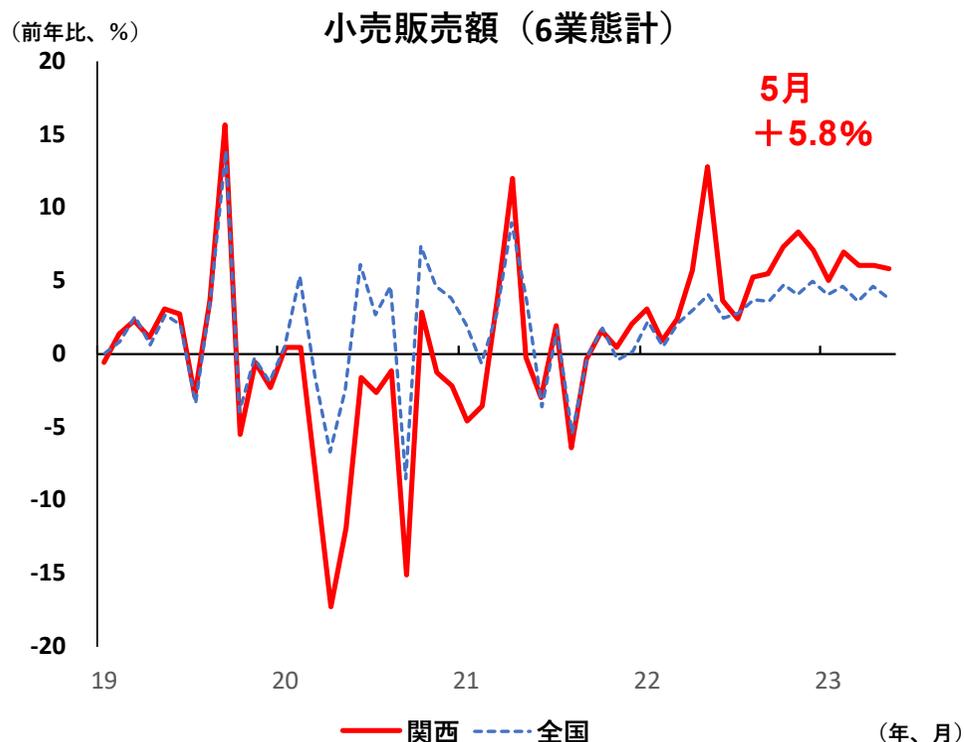
設備投資額(前年比%)

	22年度 実績	23年度計画	
		今回調査 (前回調査との差異)	前回調査
全産業	8.7	10.4 ( 10.0 )	0.4
製造業	14.4	13.0 ( 12.5 )	0.5
非製造業	5.1	8.7 ( 8.3 )	0.4

## 個人消費(小売売上、自動車販売)

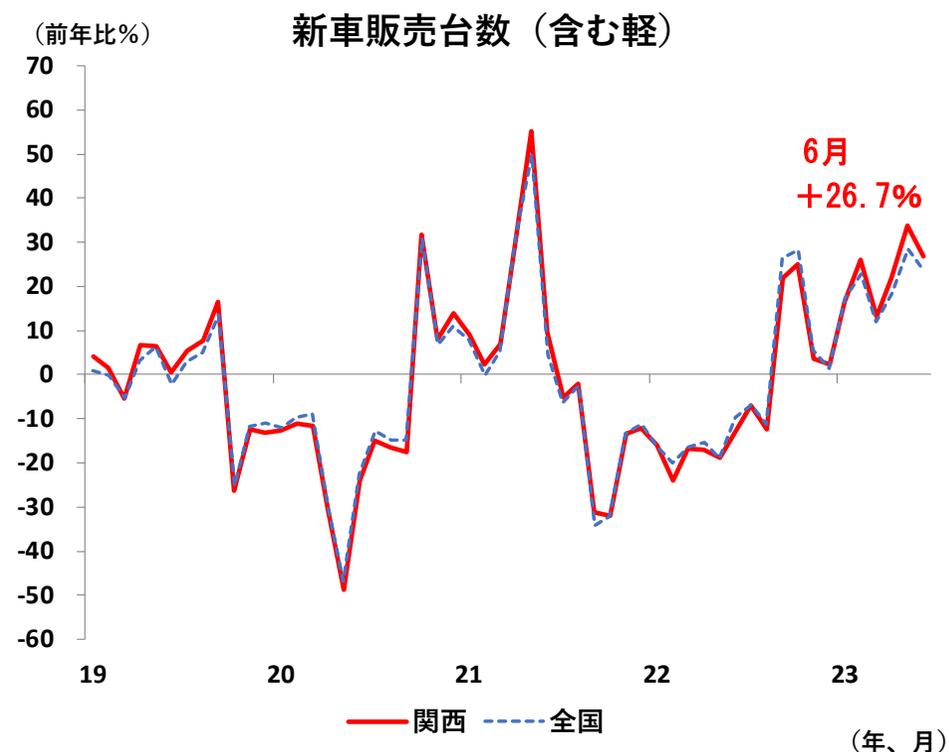
5月の小売販売額は前年比+5.8%と20ヵ月連続でプラスとなった。先行きは、物価上昇の影響が懸念されるが、ウィズコロナの定着により持ち直しの動きが続くとみられる。

6月の新車販売は、前年比+26.7%と10ヵ月連続でプラスとなった。水準はコロナ前を下回るものの、持ち直しの動きがみられる。



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計

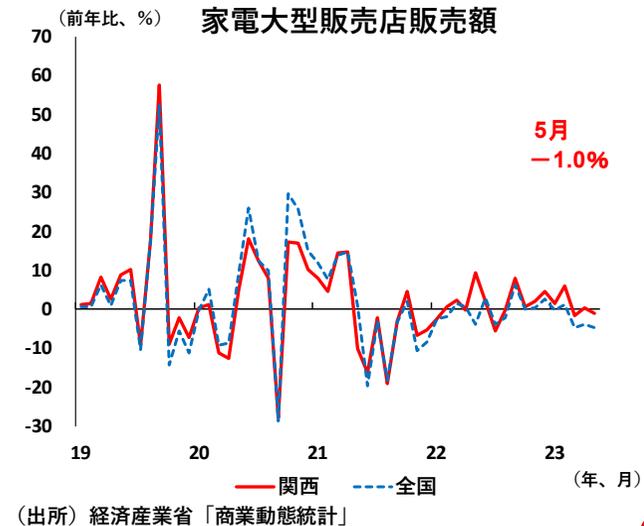
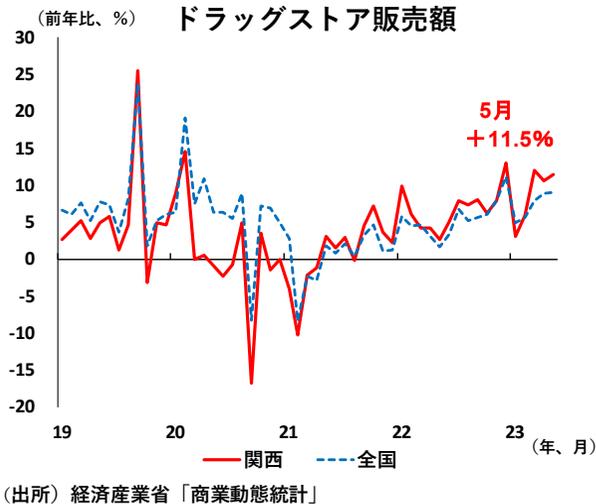
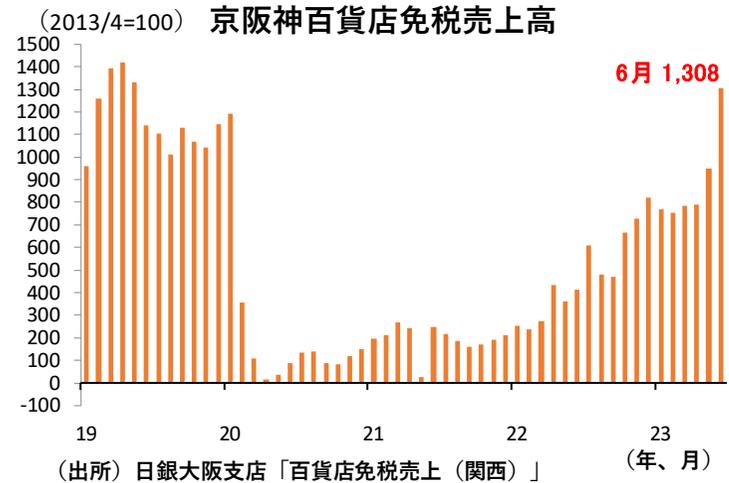
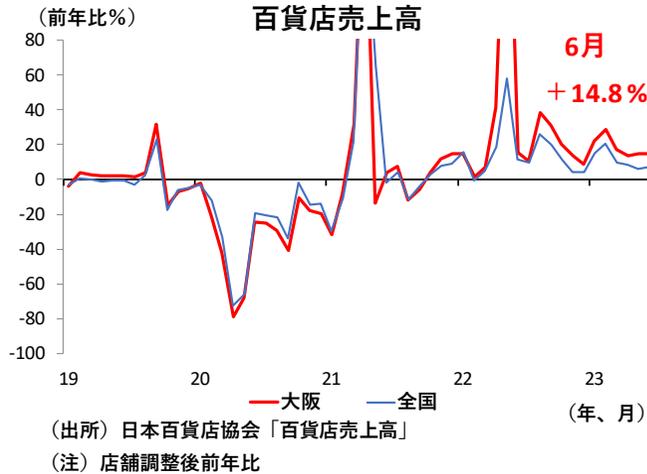


(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」

全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

# 個人消費(業態別)

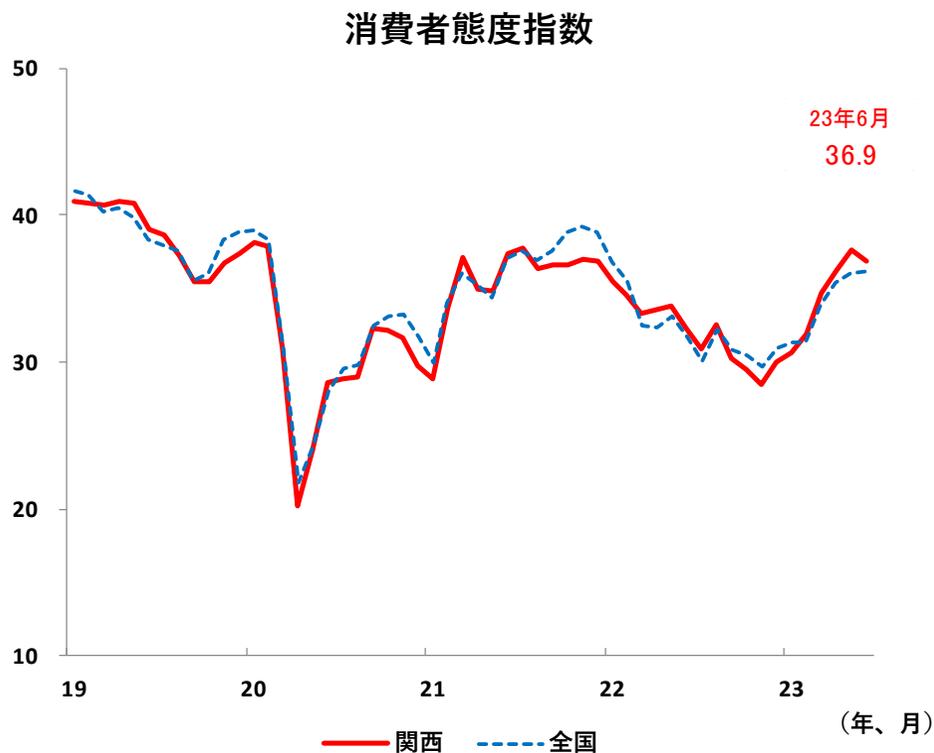
6月の百貨店売上(大阪)は前年比+14.8%と21ヵ月連続でプラスとなった。京阪神百貨店免税売上指数は、入国制限の緩和以降水準を上げ、6月は1,308とコロナ前の19年平均(1,167)を上回った。



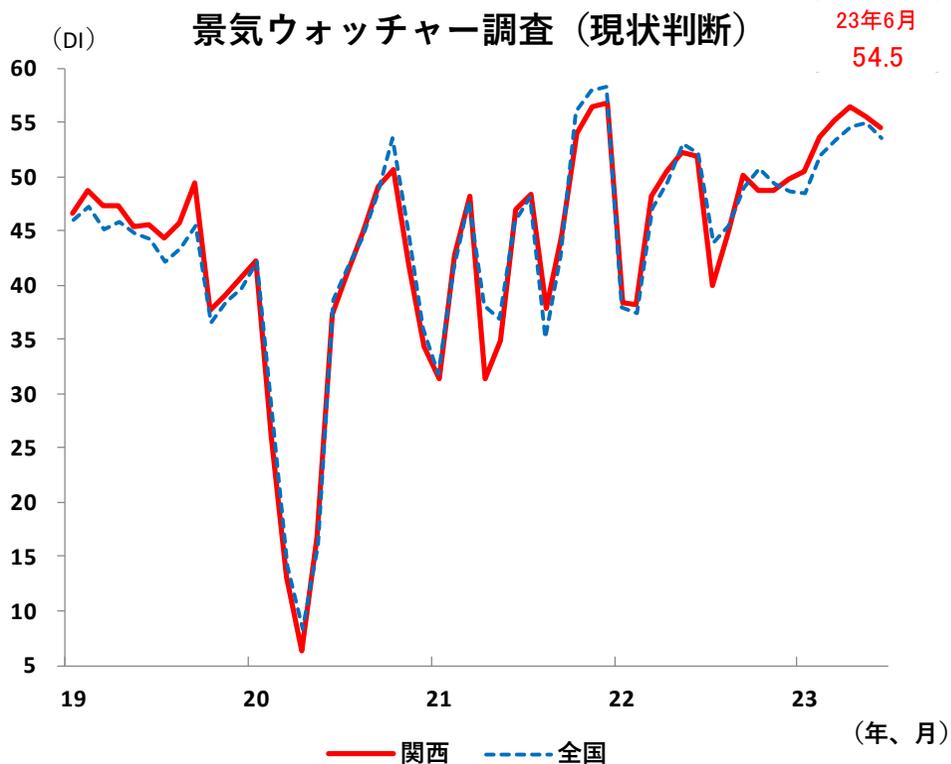
# マインド・景況感

6月の消費者態度指数(季節調整値)は36.9と7ヵ月ぶりに低下した。

6月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は、54.5と2ヵ月連続で低下したが、横ばいを示す50を6ヵ月連続で上回った。インバウンドの増加が景況感にプラスとなる一方、物価上昇がマイナスに働いた。



(注)関西の季節調整値はMURC試算  
(出所)内閣府「消費動向調査」

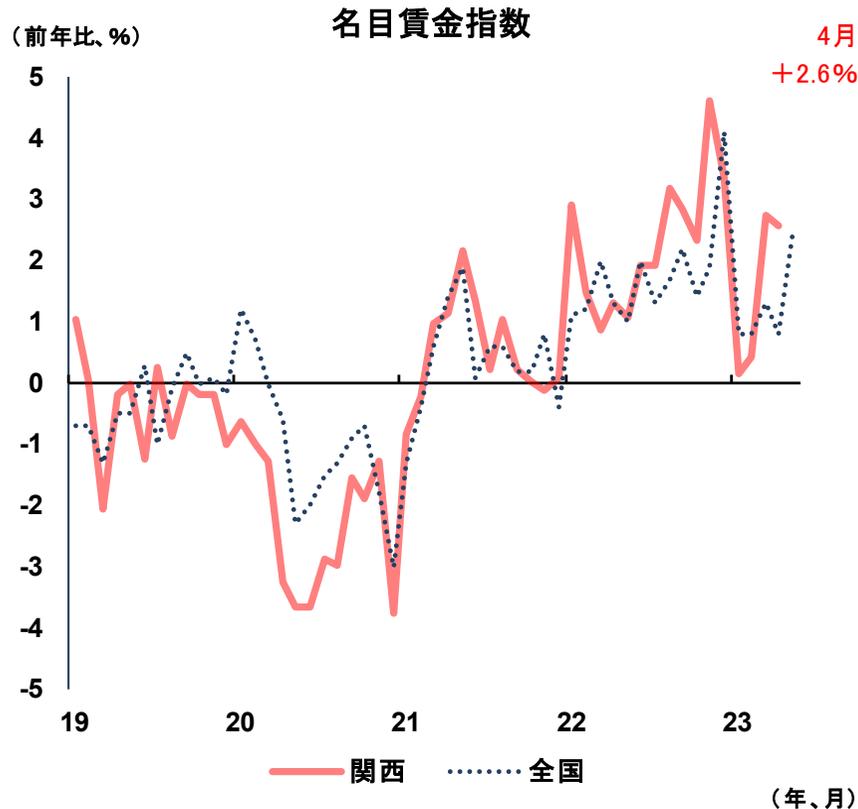


(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

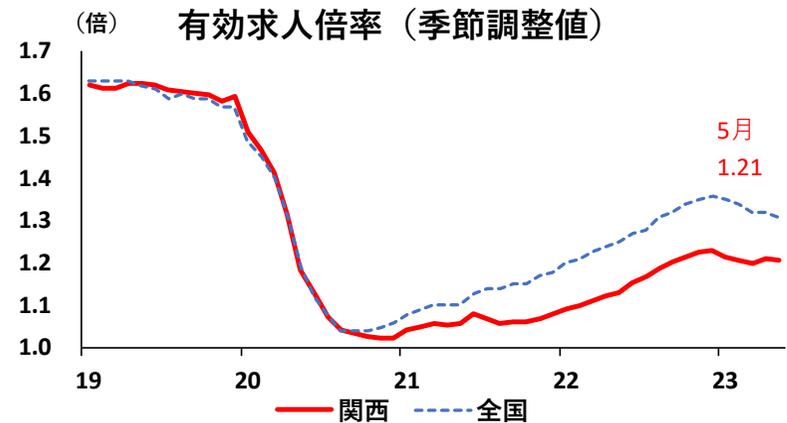
# 賃金・雇用

4月の名目賃金指数は17ヵ月連続で前年を上回った(前年比+2.6%)。

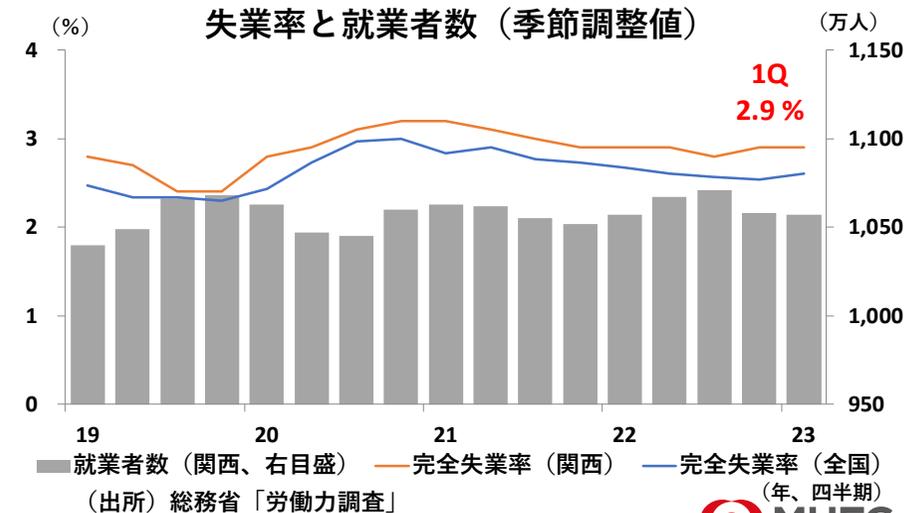
5月の有効求人倍率は1.21倍と前月と同水準。求人倍率は全国と比べ低めで推移している。23年1-3月期の失業率は2.9%と前期から横ばい、就業者数もほぼ横ばいとなった。



(注) 関西2府4県の名目賃金指数を常用労働者数で按分し合成したもの、MURC試算  
(出所) 厚生労働省、各県「毎月勤労統計」

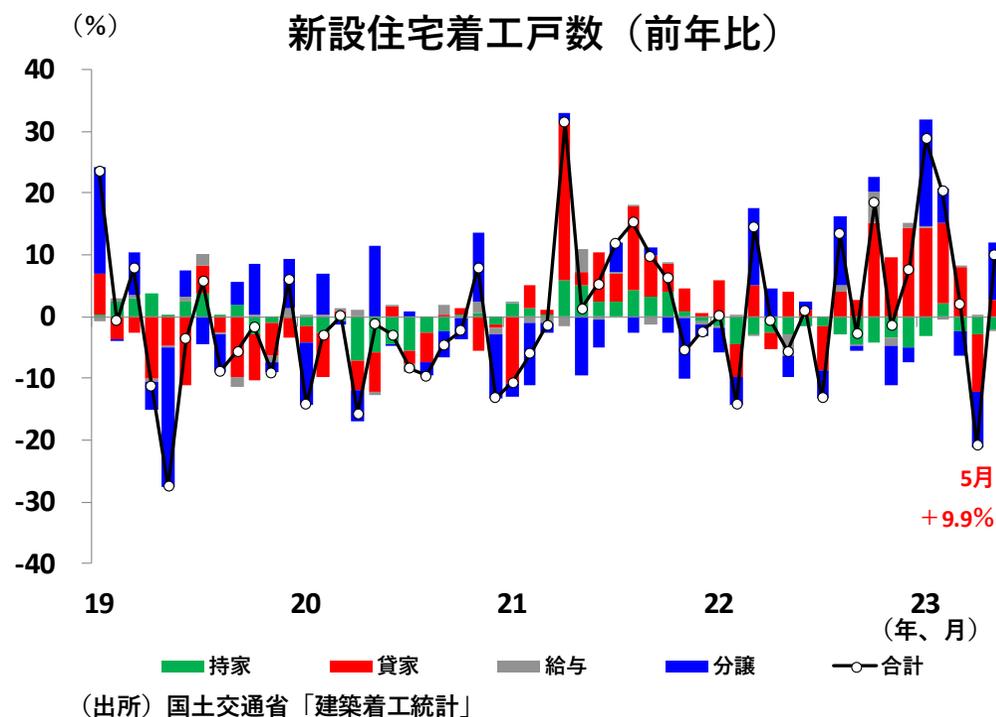
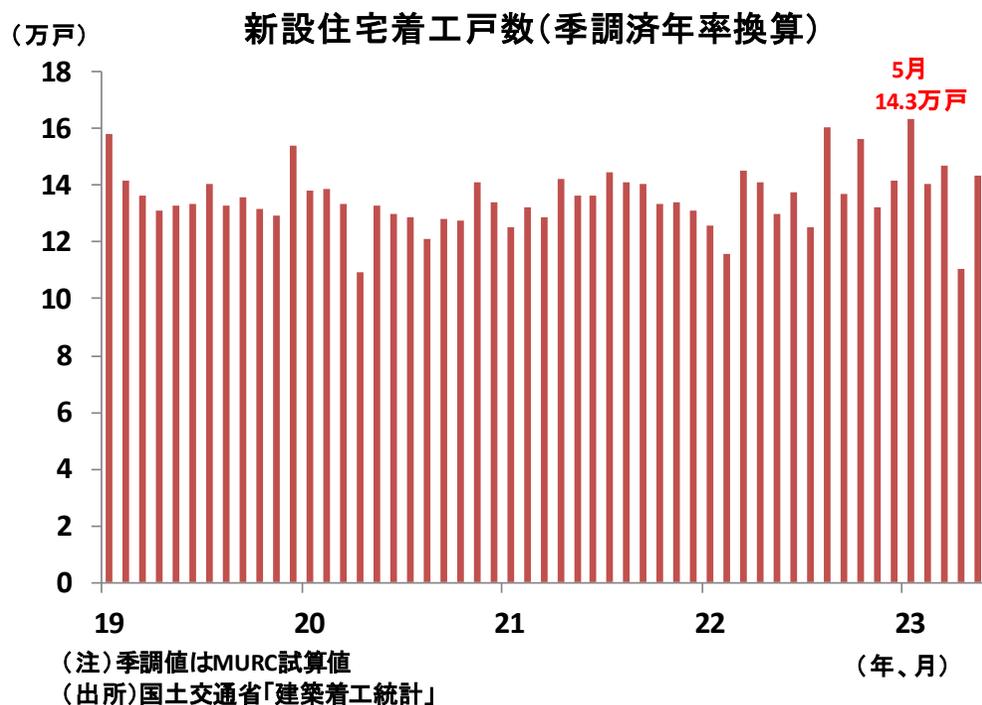


(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



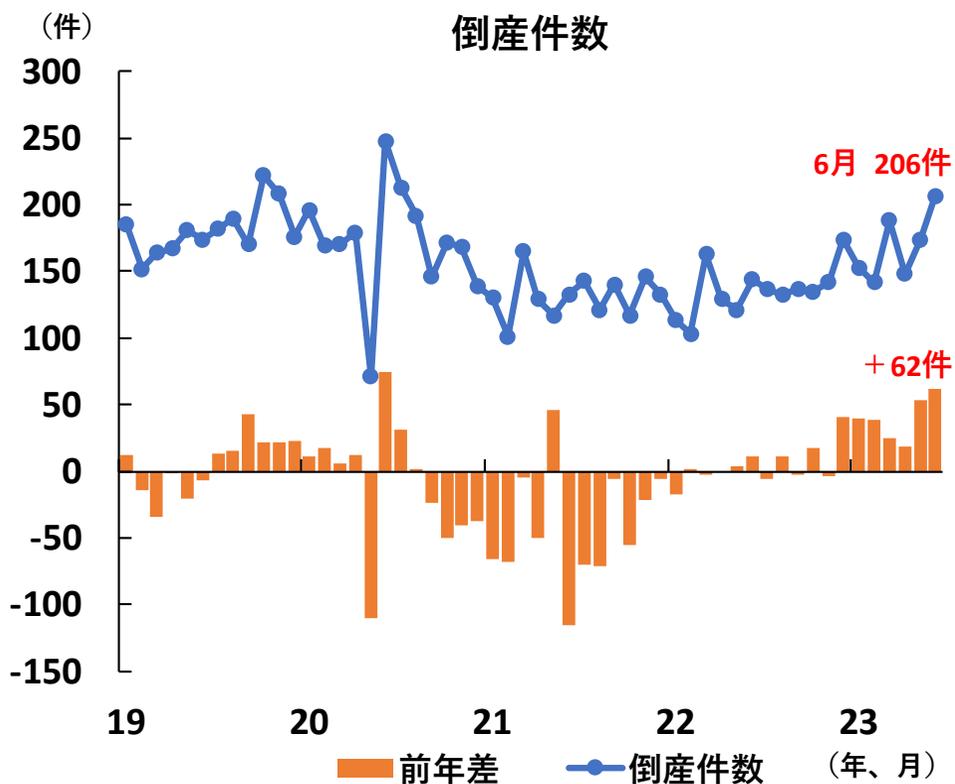
# 住宅投資

5月の住宅着工は季調・年率14.3万戸と2ヵ月ぶりに前月比で増加。均してみると横ばい圏で推移している。前年比では、貸家、分譲マンションが増加し、全体で+9.9%の増加となった。



## 倒産

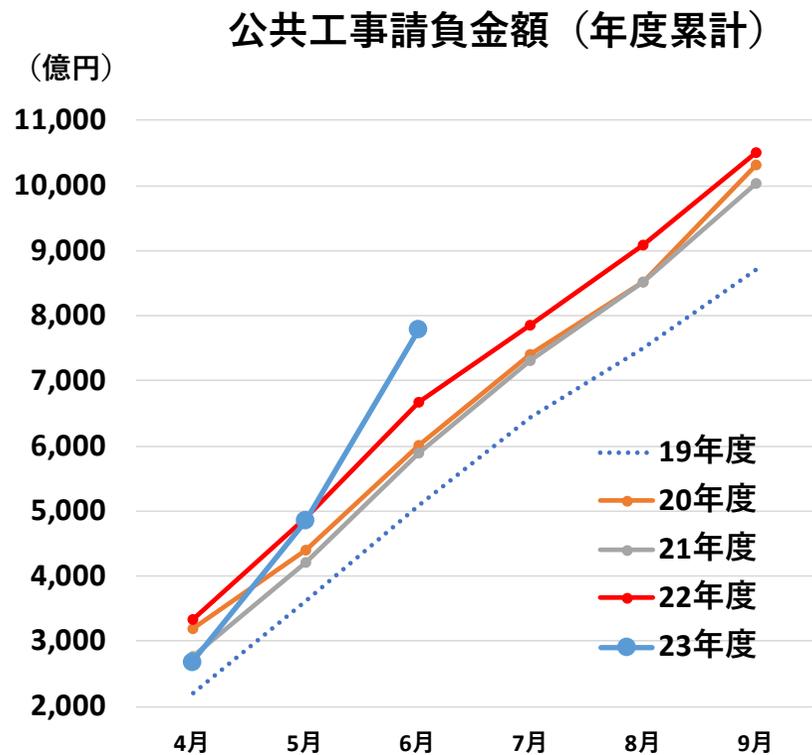
6月の倒産件数は206件と前年から62件増加。このところ前年からの増加が続いている。



(出所) 東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

## 公共投資

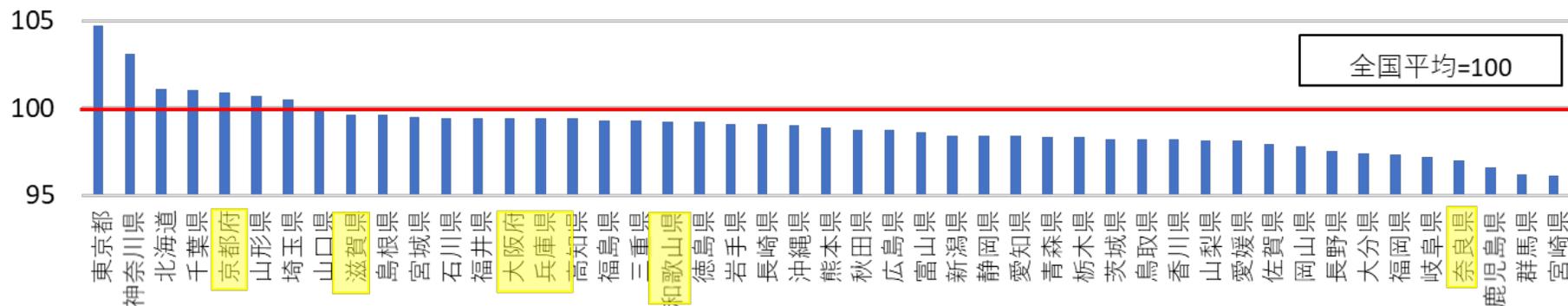
6月の公共工事請負金額(年度累計)は、前年比+16.5%の7,786億円。4、5月と前年比でマイナスとなったが、6月累計でプラスに転じ、近年では高めの水準となっている。



(出所) 東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

# 【Topic】 近畿の物価水準は相対的には高めだが、全国平均を下回る

消費者物価地域差指数（総合）（都道府県）2022年



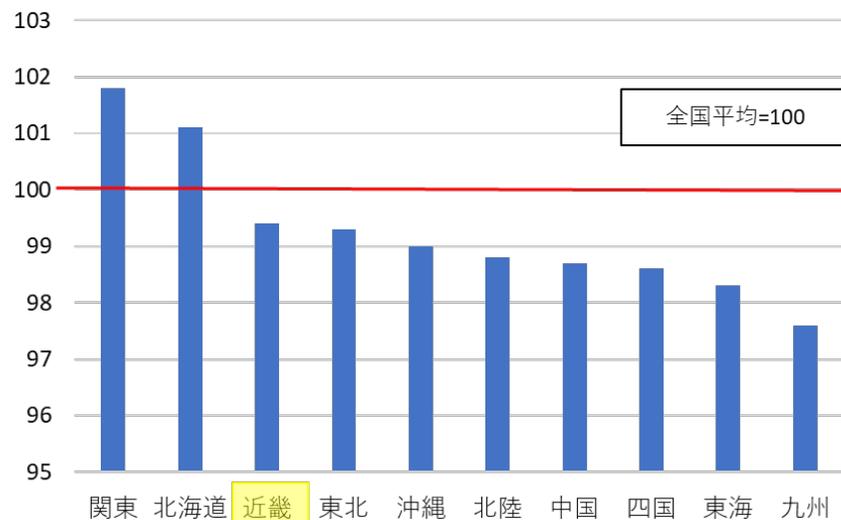
地域別物価順位（物価が高い順）

年	近畿	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山
13	2	16	5	7	4	38	8
14	2	14	3	7	5	40	8
15	2	12	6	9	4	41	12
16	2	14	4	9	4	44	9
17	2	10	5	10	7	41	10
18	2	14	4	10	6	42	12
19	3	15	5	13	6	41	19
20	3	18	3	9	10	44	14
21	3	9	3	13	15	43	17
22	3	9	5	12	12	44	19

10ブロック  
中の順位

47都道府県中の順位

消費者物価地域差指数（総合）（地方）2022年



(出所)総務省「消費者物価地域差指数」

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 塚田 TEL:03-6733-1626 E-mail:[chosa-report@murc.jp](mailto:chosa-report@murc.jp)

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、執筆時点で信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください